

条例案2件▶可決

仙北市個人情報保護条例の一部を改正する条例
マイナンバー制度施行でマイナンバーを保護するための改正。

仙北市公益法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例
再雇用職員を公益法人等へ派遣するための改正。

質問 個人情報の流出対策と市役所での内部規定について。
答弁 個人情報が入っている基幹系とインターネット等の情報系とは完全に分離され、外部からのアクセスにより個人情報が漏れることはない。内部規定については職員へのセキュリティポリシーがあり、個人情報の漏えいがないよう職員のとるべく行動が示されている。

県との事務委託規約▶可決

仙北市と秋田県との間の行政不服審査会の事務の委託に関する規約
行政不服審査会に関する事務を秋田県に委託する規約の制定。

質問 他市町村の委託状況と行政不服審査申請の窓口について。
答弁 秋田市を除く県内全市町村で県へ委託すると伺っている。また、行政不服審査申請の窓口は仙北市で行う。

一般会計補正予算

主なもの

地域総合整備資金貸付金 1億8,000万円

メガソーラーへのふるさと融資。

通知カード・個人番号カード関連事務委託費 1,004万円

マイナンバー制度施行事務委託費、国からの交付金。

公共施設等総合管理計画等作成費 減額▲2,184万円

28年、29年に繰り延べ延長された為の減額。

街灯費 394万円

角館横町橋街灯整備費。

質問 地域総合整備資金貸付金について、先般発生した茨城県常総市の水害で被害を受けた太陽光発電設備は、有害物質が出たとの話を聞かない事から危険なものでないか、問題点は地元の理解が得られていないところにある。市が地域と事業者の間に入って協定を結ぶところまで持っていくべきでないか。

答弁 住民からの指摘事項については、不安解消に向け情報を共有し理解が得られるよう、事業者から文書を地域に出したいとのことである。様々な点ですれ違いがあったことは反省している。現在、集落内の意思疎通ができない状況にあるが、理解を得る為に誰を相手にどのような協定を結ぶかという点も事業者と共に配慮、検討をしていきたい。

質問 横町橋街灯整備費について、横町橋は中学生の通学路となっており工事中は街灯が無く暗い状態なのか、また、明るさは十分か。

答弁 街灯は新しい場所に設置するので、新しい街灯点灯後に既存の街灯を撤去するので暗い期間はない。また、これまで街灯は車道側2基、歩道側1基で車道を中心に照明していたが、今回の工事で車道と歩道にLEDの街灯を設置するので歩道も明るい。



■整備される角館横町橋街灯

生保内・田沢財産区特別会計補正予算▶可決

主なもの ●生保内財産区▶分収林組合交付金▶222万円 ●田沢財産区▶森林総合研究所造林保育費▶490万円

平成26年度特別会計歳入・歳出決算▶認定

●集中管理特別会計 ●生保内財産区特別会計 ●田沢財産区特別会計 ●雲然財産区特別会計

質問 平成25年度と比較して人件費が減額となっているが、職員の減少が主な要因か。

答弁 人件費が1億1,690万円の減額となっており、職員19名の減少が主な要因となっている。

請願

○伝建群保存整備計画のうち火除け木戸門復元の早期実現を求める請願書▶採択
○メガソーラー「大規模太陽光発電」事業について▶継続審査

請願者、事業者の出席を求め両者の説明後、各委員からの質疑を行った。その結果、お互いの誤解や意見の食い違い等があり、市が両者の間に入って理解の促進を図るべきとし、委員会としても事業の調査をするために継続審査とした。

用語解説 ふるさと融資…地域振興を図るため民間事業活動に、県または市町村が地域総合整備財団(ふるさと財団)の支援を得て資金を融資する制度。

市民福祉常任委員会

平成26年度市立病院決算は約1億6,500万円の赤字 依然厳しい市立病院経営～医師確保と安心できる医療の提供を～

平成26年度市立病院の決算審査が行われ認定されました。慢性的な医師・看護師不足など、自治体病院を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。現在新角館病院の建設工事が進められておりますが、市議会では、今後もより市民に信頼される病院であるために、安定した医療の提供を求めて参ります。

質問 外来の待ち時間が長い。患者さんは忘れられているのかと思う場合もあるが対策は？

答弁 どうしても待ち時間が長くなる診療科もあるが、看護師から声をかけるなど対応に努めている。しかし、全ての患者に行きわたっているとは言えないため、今後も解消に向け努力する。

■平成26年度 市立病院事業 決算

	角館病院	田沢湖病院	医療局	合計
医業収益	36億9,589万円	6億2,954万円	0円	43億2,543万円
医業費用	39億8,911万円	8億1,782万円	88万円	48億780万円
医業利益	△2億9,321万円	△1億8,828万円	△88万円	△4億8,237万円
医業外収益	3億5,022万円	1億2,600万円	1,001万円	4億8,622万円
医業外費用	1億2,525万円	4,361万円	5万円	1億6,891万円
通常利益	△6,825万円	△1億590万円	908万円	△1億6,506万円

条例・補正予算 ～こんな内容を決めました～

認可保育園等管理費

121万円

市内保育園の修繕などにかかる費用。

塵芥処理費

863万円

市内最終処分場3箇所の水質検査計器の不調による更新費用。

消費生活相談事業費

△9.5万円

消費相談係による消費者相談の費用。

仙北市手数料条例の一部を改正する条例

マイナンバー制度に伴い、カード紛失時の再発行手数料を定めるもの。

仙北市幼保連携型認定こども園条例を廃止する条例

28年4月1日から「だしのこ園」と「神代こども園」が社会福祉法人運営になることによる条例改正。

質問 保育所等の修繕だが、財政上すぐ対応できていない部分もあるのではないかと？

答弁 今回の修繕は以前からのものがひどくなったため行う。今後も重要性の高いものから順次修繕していく。

質問 消費生活相談員は角館庁舎に配置されているようだが、田沢湖・西木庁舎ではどういった対応をしているのか？

答弁 電話があった場合は角館庁舎に転送しているが、相談内容によって臨機応変に対応したい。

市内認定こども園 「だしのこ園」「神代こども園」

28年4月1日から

社会福祉法人「はなさき仙北」が運営

市内幼稚園・保育園の法人化運営を実施するため、10月1日、その受け皿となる社会福祉法人「はなさき仙北」が設立認可されました。28年4月からは「だしのこ園」、「神代こども園」が「はなさき仙北」の運営となります。より充実した保育教育環境を構築して頂くことに期待します。

質問 法人運営に切り替わると、保育・教育の内容はどうなるのか？

答弁 市立の際のサービス水準を落とすことはしない。病児保育や土日の保育等についても今後検討する。



■だしのこ園



■神代こども園

平成26年度 特別会計決算 (歳出総額)

- ◆ 国民健康保険 35億6,949万円
- ◆ 後期高齢者医療 2億9,234万円
- ◆ 介護保険 4億4,562万円

認定

産業建設常任委員会

企業誘致案件に議論集中～(株)司食品工業の早期誘致を～

9月定例会の産業建設常任委員会では企業誘致案件について議論が集中しました。市では青森県で大規模な食品加工工場を営む(株)司食品工業を誘致するため、生保内黒沢地内に工場用地

約30,000㎡を取得し、先ごろ造成工事が完了しておりますが、委員会では早期誘致を求めて次のような質疑や意見が出されました。

質問 誘致の進捗状況や課題、締結済みの覚書の扱いや今後のスケジュールはどうなっているのか？

市長 8月に企業側社長が県庁を訪れ副知事と会談するなどこれまで数回打合せをしている。県も、これまでは設備投資費用の2割まではしか受けられなかった助成を3割にするなど制度改正を行っている。社長からは今後の課題として数点挙げられている。まずは、80人体制の工場を開始するにあたり、まだ用地が不足しているという点である。ただし、これについては、市が再び用意するというものではなく今後企業側が対応することで協議が完了している。排水等については、地元の田沢湖漁協と継続的に協議をすることで双方確に協議をすること、従業員認している。また、従業員のある自治体が進出企業のために従業員用住宅を整備した事例を出されてはいたが、市としては空き家の活用を提案している。また、企業側は、現在も他県からの引き合いがあるということも踏まえて、国等から、事業費の半分程度の助成をもらいたいと考えている。関係機関に相談したところ、「地域経済活性化支援機構」の活用を提案されている。これは、秋田県内では実績はまだないが、地元金融機関が投資することにより資金調達を行う制度であると伺っている。社長からは、一旦は仙北市側で腰が折れて資金調達については白紙に戻ったが、この点で調整がつけば、すぐにでも話しを再開すると言われている。また、輸送については、青森工場からは1日で首都圏まで行けるものが、仙北市からは4日かかる見込みであり、今後の方向性としては、盛岡、水沢、北上などに施設を設けて自社での運送を検討しているようである。締結済みの覚書に進出期限は明記していないが、互いに一定の要件は出尽くした状況であるため、今後期限を区切って協議に臨みたい。

条例・補正予算 ～こんな内容を決めました～

仙北市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部改正

西明寺地区簡易水道を山谷川崎地区の一部に延伸するための条例改正。

相内潟小規模水道管理運営費 248万円

相内潟簡易水道の水位計の更新。

有害鳥獣駆除事業費 100万円

クマ等の出没が多発しているための駆除費増額。

企業誘致対策事業費 434万円

(株)司食品工業誘致予定地付近の地下水調査他。

冬期交通対策費(除雪費) 3億1,432万円

冬期間の道路除雪にかかる費用。

住宅リフォーム促進事業費補助金 361万円

住宅をリフォームする際の補助金。

農業用施設災害復旧費 1,924万円

7月の豪雨による農業用施設の被害に対する復旧補助。

碓氷川(西明寺地区) 排水対策に関する請願を採択

度重なる水害により、広範囲に被害が及んでいる西明寺地区の碓氷川周辺の排水対策を求める請願書が審査され、委員による現地視察を経て採択されました。市や関係機関に対し抜本的な対策を求めて参ります。



■碓氷川氾濫による水害の様子

平成26年度 特別会計決算 (歳出総額)

- ◆ 下水道事業 12億1,938万円
- ◆ 集落排水事業 3億5,913万円
- ◆ 浄化槽事業 1億1,143万円
- ◆ 簡易水道事業 7億7,510万円



平成26年度 企業会計決算 (事業収益・事業利益)

- ◆ 温泉事業 3,295万円 (△42万円)
- ◆ 水道事業 3億1,293万円 (493万円)

緊急!!

2つの決議案を可決!!

企業誘致の 早期実現を求める決議

市民にとって働く場の確保は切実な課題であり、地方創生の基盤とも言える本市の最も重要な政策課題の一つである。

仙北市は、企業の誘致のために、本年7月に工場用地の造成を完成し、市議会でも、企業進出の実現に向け、限りある血税の投下が有益となるよう真剣に議論し続けている。

したがって、喫緊の課題である地域における雇用創出の取り組みとして、市議会は、市長に対して、早期に企業誘致の実現を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成27年9月30日
仙北市議会

市職員の 不祥事に関する決議

9月28日に、本市職員が最終処分場の水処理業務において、取賄の容疑で逮捕された。

本定例会の会期中には、市民税等のデータ処理の誤り、平福記念美術館のマスターキー紛失など、度重なる事件により、市民の信頼を大きく失墜させる不祥事が相次いでいる。

これまでに、過去の事件を教訓に、再発防止に取り組んでいるにもかかわらず、かかる一連の事件が発生したことは、市民の信頼を再び裏切る事態であり、市民の憤りは極限に達している。極めて遺憾である。

したがって、市議会は、市長に対し、猛省のうえに、以下の徹底を求める。

- 1 不祥事の根本的な原因の究明
- 2 統括責任において不正を根絶するための管理体制の一層強化
- 3 職員の職階制に基づく責任の自覚

以上を踏まえ、今一度、公正で適切な市政運営を肝に銘じ、一刻も早い市民の信頼回復に応える方策を示すよう強く求める。

以上、決議する。

平成27年9月30日
仙北市議会

産業建設常任委員会 現地視察

9月定例会で、産業建設常任委員会に付託された「碓氷川排水対策に関する請願」を審議する為に委員会が現地視察を行った。

請願書によると降雨の度に山林からの雨水が集中して大氾濫が繰り返して起きている。

その大量の水が宮田水路で排水しきれず、堤防を越えて上荒井地区や門屋地区の住宅、更に、東前郷地区まで水害の被害が及んでいる。毎年繰り返される事態に各地域から強い対策要請の声が上がっている。平成22年には7月30日・8月14日と立て続けに被害を受け、平成23年度には調査に取組んでいる矢先の6月23日に豪雨災害が発生してしまい、床上、床下浸水、農作物、農業被害等を受けた。

現地視察には度々被害を受けた住民も参加し、水害の状況と排水対策を切々と訴えていた。市としても、排水改良や側溝改良工事等を行ってきたとの事だが、碓氷川上流から国道105号線を横断し、西明寺小学校下流域までの広大な面積と被害地域である。県や国とも相談しながら、抜本的な災害対策を講ずる必要があることを痛切に感じてきた次第である。

地域住民が安心・安全に暮らせるように防災・減災対策をしっかりとやるのが、行政の一番の仕事である。

課題は多いが、やれるべき事は早急に手を打つようにならなければならないのではないか。雨以降の度に起きる被害を最小限に食い止める為に…。

(熊谷一夫記)



■宮田頭首工で説明を受ける委員会メンバー

控室

9月29日午前2時頃緊急連絡のFAXが届いた。内容は、市役所職員が取賄の疑いで逮捕され、県警が捜査を行っているというもので、午前3時から記者会見を行うというものであった。翌朝、事務局より、緊急の全員協議会開催の連絡が入る。

午後3時。開会前の控室では、朝の新聞報道や各議員への電話等の情報を元に、容疑者の動向、以前から指摘してきた市長や市幹部の統率力の無さに対する批判が相次いだ。「二つ良い事があれば必ず二つ、三つ悪い事が続く。まして今回は、公務員として絶対にあつてはならない事だ。」と興奮気味に話す議員もいた。

全員協議会では、贈収賄事件に関する経過報告についての報告があり、市長以下参与と全員の陳謝の後で、「職員の内部統制、緩みが目に付く」との厳しい指摘もされた。

公務員として、奉仕者としての自覚の足りなさを嘆くより、市役所内部の統制の甘さ、責任倫理の無さがもたらすものが、多くの不祥事続きの原因ではないだろうか。

合併10周年記念式典では、県知事や県会議長から心配して激励のあいさつを頂いた。10年後の仙北市の未来へ向けて波瀾のスタートとなった。

職員の中には深夜まで必死で頑張っている方もいることは事実だが、一連の不祥事の一事が万事である。

【市民の信頼を取り戻す為】市の将来に対する責任を果たす為、に、どれだけ労苦を惜しまず、真剣に、誠実に業務に邁進する人間を創出できるかが市役所改革の鍵となるだろう。

(熊谷一夫記)